

葡萄の香



日本基督教団
酒田教会

〒998-0037
酒田市日吉町
1-1-7
TEL 0234-22-1224
牧師 塚本恭子

聖霊を悲しませてはならない

牧師 塚本恭子

神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、聖霊により、贖いの日に対して保証されているのです。

(エフエソの信徒の手紙4章30節)

マルチン・ルターは、恐ろしい神の存在を体験した人です。彼の告白によると、神は雷で命を奪うほどの凄まじい神で、「殺す神」であると語ります。ルターは「神は私たちを活かそうとするときは、私たちを殺そうとする神であり、神が私たちを義とする時には、私たちの内にある一切の善きものを破壊するのである」と愛の神とはまったく違った厳しい神の側面を語ります。この言葉は彼が宗教改革という激しい戦い人生で艱難と苦難に満ちた日々を送り、自分が生きるか死ぬかという宗教論争の渦中に

あつて、真理との戦いは、神との戦いで命がけのものでした。聖霊は、私たちを義とするときは、私たちのもっている誇りとするもの、知識や身体、名譽、財産、家族など、もっている最も大切なものを破壊するというのです。私たちに敵のように破壊する神として顕われる不条理な神、怒りを向ける神であるとルターがいうのです。

私も自分の信仰生活の中で、神と対決するようなときが幾度もあり、神の意志に逆らいそこから逃れようとする自分を自覚することがあります。逆らえば逆らうほど自分の行く道を閉ざされて神に従わざるを得ないことを経験しています。

父なる神に従順に従った主イエス・キリストは、今私たちに「聖霊を悲しませてはならない」と言います。あの十字架の上でキリストが私たちのために悲しみの涙を流して、私たちの罪のために「聖霊を悲しませてはならない」と語りかけています。キリストは罪に対する激しい怒りと憐みが、

十字架の上から私たちに威圧的なまなざしと憐みのまなざしで見つめているのです。そして私たちに逃げ場のない視線で見守られています。この十字架のキリストのまなざしの中に義と聖の畏敬が現されているのです。

私たちは、主イエス・キリストの十字架によって救われ、永遠の命に与る者です。私たちは心に聖霊を宿す者です。古い人間の時は罪のままの自分で、神の霊を悲しませました。しかし、今は違います。新しい人になったのです。新しい衣をまとった者は、終わりの日に、神の栄光に与る者です。

「あなたがたは、聖霊により、贖いの日に対して保証されている」者であると言われています。神は私たちに約束をしています。その約束は、終末のその日には、確実にキリストによって贖われ、永遠の命を保証されること。私たちはキリストによって神の子らとして「保証つき」です。だから、神の勧告を守りなさい。この神の聖霊による栄光が失われることがないために。もしも、罪を行う者があるなら、神の聖霊は悲しみ、あなたを裁くというのであります。一人ひとりがいっしょかりとした信仰を持つこと、キリストの信仰共同体として体がひとつであ

ること、共同体が一致してキリストを仰ぐことが、主の霊を喜ばせるのであります。だから、無慈悲、憤り、怒り、わめき、そしりなどすべてを、一切の悪意と一緒に捨てなさいと言われます。これらのものを守らない者は、悪に使えるもので、当然、神の聖霊が悲しみ、最後には神の裁きが下されるのです。使徒パウロは互いに親切にし、憐れみの心で接し、神がキリストによってあなたがたを赦してくださいったように、赦し合いなさいと勧めています。

神は私たちにキリストを与え、キリストに結びつけることによって私たちの罪は許されたのだから、そのキリストに倣うことが最も大切なことです。私たちは、神の聖霊が悲しまないために、キリストの霊に満たされて終末のその時に至るまで「主の霊によって保証されるもの」となりますように信仰に励みましょう。

(11月4日主日礼拝 要約)



あなたがわたしと共にいてくださる

東京神学大学大学院 鈴木道也

聖書 詩篇23編

主の養い

この詩編33編において、詩人は「羊飼いと羊」の表現を用いて、自分と主なる神との関係を謳いあげています。《主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。主はわたしを青草の原に休ませ／憩いの水のほとりに伴い／魂を生き返らせてくださる》。羊飼いなる主は、私がいまどのような状態であるかをよくご存知です。ふさわしい時に、休息を与えてくださる。私が疲れている時、苦しんでいる時は、青草の原に休ませてくださる。また、私が渴いている時、憩いの水のほとりに伴ってくださる。「魂」という言葉が使われていることから分かるように、ここではただ物質的な養いを受けているというだけではなく、むしろ魂が主から養いを受けていることが謳われていることが分かります。

主の導き

主は同時に、私たちを導いてくださる方

でもありません。《主は御名にふさわしく

わたしを正しい道に導かれる。死の陰の谷を行くときも わたしは災いを恐れない。／あなたがわたしと共にいてくださる。／あなたの鞭、あなたの杖／それがわたしを力づける》。その旅路において、ときに、死の陰の谷を歩む時もあります。死の陰の谷とは、「暗い谷間」とも訳すことのできる語ですが、そのような危険な場所を行かねばならないときがあるのです。詩人はこの暗い谷間を行くときも「あなたがわたしと共にいてくださる」から、災いを恐れない、とはつきりと語ります。

主イエスはよい羊飼い

これらの言葉から分かりますことは、羊である私は、群れの中でただ流れに身をまかせているのではないということです。羊は自分の全身を羊飼いにゆだねつつ、しかしそこに主の導きがあることを、はっきりと意識しています。羊飼いのその細やかな配慮、導き、恵みを味わい、喜んでいきます。この詩において、羊飼いと羊は、一対一の関係にあるということができるとでしょう。羊飼いが羊のことをよく知っています。主イエス・キリストは私たちにおっしゃいま

した。《わたしは良い羊飼である。わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている》(ヨハネ10:14)。私たちキリスト者の羊飼、主イエス・キリスト——主イエスは私のことを知って下さっています。そしていま、たとえ私が暗い谷間にいるのだとしても、主イエスが共に歩いてくださっています。

主の約束

《命のある限り／恵みと慈しみはいつもわたしを追う。／主の家にわたしは帰り／生涯、そこにとどまるであろう》。「恵みと慈しみはいつもわたしを追う」という言葉は、具体的に言い換えますと「主の約束の言葉はいつも私を追う」ということができます。この「慈しみ」という言葉は、旧約聖書においては、主の契約(約束)ということと関連して使用されることがある言葉です。私たちが主の約束を忘れようとも、主は恵みと慈しみの約束を必ず果たしてくださいます。その約束とは、私たちに「永遠の命」が与えられることです。

《わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである。わたしはよい羊飼である。良い羊飼いは羊のために命を捨てる》(ヨハネ10:10、11)。《わ

たしは彼らに永遠の命を与える。彼らは決して滅びず、だれも彼らをわたしの手から奪うことはできない》(同10:28)。主は、永遠の命の約束のため、ご自身の命を捨ててくださいました。《わたしは羊のために命を捨てる》。私たちの羊飼いなる主イエスは、この私のために、命を捨ててくださった方です。羊飼いなる主は、それほどまでに私たち羊のことを愛していただく方です。それは、私たちが永遠の命を得て決して滅びず、何者も主の手からわたしたちを奪うことができないようにするためです。

死の陰の谷を歩むとも

だからこそ、もはや、私たちは死の陰の谷を恐れません。私たちの人生の最後に、暗い谷間、死の陰の谷間を歩みます。しかもはや、死でさえも、羊飼いなる主の手から私たちを奪うことはできないのです。人生の最後まで、主は私と共に歩んでくださいます。主はそうして、私たちの人生を、完成へと導いてくださいます。

もちろん、この私の人生は、自分自身の目からみると、不完全なものです。自分自身の目からみると、欠けの多い人生であった、と振り返らざるを得ません。けれども、この未完成な私の人生を引き受けて、最後

に完成してくださるのは主です。ある人は私たちの現実の人生とは、「未完了の人生」であると述べています。意に添わない生活を送ったり、せつかくの仕事が途中で挫折したり、突然の病気に見舞われたり、未完了の仕事を抱えて生きるのが私たちの人生です。そのとき、人は問います。「何のための人生だったのか?」。これは、いま暗い谷間を歩む者の、率直な問いであるということができません。しかし、と文章は続きます。

「しかし、最後には問いごと受け入れてくださる方がおいでになり、そのお方が問いごとそっくり未完了の人生を受け取ってくださいって完成へと導いてくださる、この答えを知っている者は幸いです」(賀来周一『キリスト教カウンセリングの本質とその役割』より)。私たちの人生の最後には、主が、その「問い」ごとそっくり、その十分な、未完了な人生をひきうけてくださって、完成へと導いて下さるのだ、と述べています。私たちの人生を完成へと、欠けることがないものへと導いてくださるのは、羊飼いなる主イエスです。であるからこそ、人生の最後に、私たちが告白することができるとは、私たちが告白するに何もうるべきではない。《主は羊飼、わたしには何も欠けることはない》。私たちはいま、主の永

遠の命の約束の中で、何も欠けることはない者とされています。

私たちはこの詩編の編を、いま、この礼拝において、主が私たちに語ってくださいたい「約束」の言葉として聴きなさいことができます。最後に、共に、この主の語りかけに聞いてみたいと思います。「私はあなたの羊飼い、あなたには何も欠けることがない」。「死の陰の谷を行くときも、あなたは災いを恐れることはない。わたしがあなたと共にいる」。

(10月28日 酒田教会説教概要)

子どもたちとの生活の中で

酒田教会長老 斎藤りゑ

「5歳までの子どもは無条件に天国に入ることができる」といわれる。まさに毎日接している子どもたちは1, 2歳でも人に対する優しさを持ち合わせていることを知らされる場に合うことがある。

子どもたちは左右の足の長さが違う私の歩き方はよく見ているのだ。ある時、ダンボール箱を跨ごうとしたら、1歳児の男の

子がたどたどしい言葉で「だいじょうぶ？」と心配してくれた。また別の日には食器を乗せたお盆をもち、両手がふさがった状態で階段を降りてくると洗面所で洗っていた手を止めて、3歳の女の子が不思議そうに「どうやってきたの？」と声をかけてくれた。一瞬意味が理解できないでいる私に3回位繰り返した。やっと覚えた多くはない言葉で、一生懸命に他人のことを思いやる気持ちや伝えようとする。その自然な優しさに胸が熱くなる。

神さまは子どもたちの中に真に生きていて、鈍い私にはたらきかけて下さっていることを思う。感謝です。(託児園主任保育)

牧師館便り

皆様お元気ですか。「葡萄の香」第4号をお送りします。酒田の秋は小春日和がほとんどなく風と雨です。カラコロと北風に落ちる紅葉ではなく、強風に煽られて一斉に空一面に舞い上がりその後落ちる葉が雨に濡れてビジョビジョです。不思議なのはこの雨は雷雨で、ものすごい稲妻が光ります。愛犬が怖がって私の膝の上から動こうとし

ません。けれども最上川と新井田川にたくさんさんの鴨や白鳥が飛来して、山育ちの私は興味関心が深いです。

さて、酒田教会ですが、無牧の時は出来なかったことを復活させています。永眠者記念礼拝では墓前礼拝をしました。これから収穫感謝礼拝、幼児祝福式、クリスマス、キャンドル・サービスと行う予定です。牧師が最も気にする礼拝者が増えることは、力不足です。しかし、ふたば園の先生方が礼拝に出席して牧師を喜ばせています。

酒田教会は庄内地区と呼ばれて4つの教会がありますが、礼拝出席は少なく10人に満たない教会が多いです。酒田教会も例外ではなくどのように伝道したらいいのか悩みます。神の意志があることを信じて前に進みたいと思っています。取りあえず今年度は牧師の住みかを改装して暖房を入れました。牧師が献金したのですが足りないのです。クリスマス献金でと考えています。振替用紙を同封しますのでよろしくお願います。引き続きお祈りをお願いします。

(牧師 塚本恭子)

編集後記

この冬、私は越せるかどうか心配です。一万円の雪雨用ゴム長靴を買いました。(T)